

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

茨城大学農学部総合戦略・IR委員会

(責任者名) 井上栄一

(役職名) 茨城大学農学部総合戦略・IR委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	本プログラムは、令和4年度より開始されており、令和7年度には初めての修了生を輩出する予定である。
学修成果	現在のプログラムを履修中の人数は、令和4年度入学者が10名、令和5年度入学者が43名、令和6年度入学者が61名である。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	プログラム関連科目は、すべて授業アンケートを実施し、学習成果の向上に向けた改善をおこなっている。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	授業アンケートを通じた後輩他の学生への推奨度の取り組みは実施していないが、新入生ガイダンスでもプログラムを案内し、学生への推奨の取り組みとしている。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	新入生ガイダンス等での宣伝を実施した。 また、令和7年度よりDP(ディプロマ・ポリシー)ルーブリックに「農学分野データサイエンス教育プログラム」の履修を掲載し、履修率向上を目指す。
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	卒業生調査や卒業から3年後に実施する卒業後調査において、本プログラムを修了した卒業生の進路、活躍状況、企業等の評価について把握することが可能である。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	現在、茨城大学農学部は、数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムに特定分野校(自然科学分野)として参画しており、その活動の中で、農学関連企業と共同で勉強会やイベントを実施しており、企業側で求められている農学系のデータサイエンス人材像を模索中である。今後とも企業からの要望をプログラムに反映させていくことを計画している。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	本プログラムにおいて、構成される科目群は、ほとんどが農学部の教員によって担当されている。そのため、授業内で学習する知識が農学分野においてどのように応用されるかについて、度々説明が行われている。こうしたアプローチにより、学生は「学ぶことの意義」を強く意識しながらプログラムに参加することができる。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	また、「学ぶことの意義」を意識することで、モチベーションを高く保つことができ、「学ぶ楽しさ」につながる農学分野データサイエンス教育ワーキンググループにおいて、毎学期実施される授業アンケート結果や教員自己点検結果、成績分布等をもとにFDを実施し、内容・水準を維持・向上しつつ学生にとってよりわかりやすい授業への改善を行っている。
	また、学生も参加可能なイベントを開催し、数理・データサイエンス・AIの応用現場の理解を促進している。